

2023 市民広島派遣報告書

～平和の尊さを体験し、伝えるために～



目次

1	市民広島派遣に参加して.....	1 ページ
2	派遣者	2 3 ページ
3	行程の記録	2 5 ページ

主催 平塚市

運営 I LOVE PEACE事業運営委員会

平塚市では、昭和60年12月20日に「核兵器廃絶平和都市宣言」^{かくへいきはいぜつへいわとしせんげん}を行って以来、広く各方面に平和の尊^{とうと}さ、大切^{うった}さを訴えるとともに、「I LOVE PEACE」のキャッチフレーズの下に平和推進事業を行っています。また、この平和推進事業について平塚市では、市民に共に行動することを呼びかけ、これに賛同^{さんどう}した市民団体等（平和協力団体・市民）と「I LOVE PEACE事業運営委員会」^{こうせい}を構成し、市民の立場から各種の平和推進事業を展開しています。^{てんかい}

「市民広島派遣事業」^{はけん}は、この平和推進事業の一つとして、原爆投下^{げんばくとうか}の日に合わせて、被爆地^{ひばくち}である広島市に市民を派遣しているものです。平和記念式典への参列^{さんれつ}、被爆者の体験談、平和関連施設の見学などを通して、平和の尊^{とうと}さ、大切^{たいかん}さを体感し、これを一人でも多くの方々に伝えていただくことを目的とした事業です。平成4年の市制施行60周年記念事業として始めたこの事業は、今年で29回目を数えます。今回、10組20人の市民の方々を広島に派遣することができましたことを喜ばしく思います。

ここに、8月5日から7日までの2泊3日にわたる派遣事業の「報告書」^{こうきゅうへいわじつげん}がまとまりました。この「報告書」が、恒久平和の実現のために役立つことを願っています。

最後に、この事業の実施に当たり、熱意^{ねつい}を持って参加していただいた皆さまに感謝申し上げます。

令和5年9月

I LOVE PEACE事業運営委員会
委員長 眞田 晃子



1 市民広島派遣に参加して

- ・この「市民広島派遣に参加して」は、派遣者から寄せられた感想文を取りまとめ、報告書としたものです。
- ・感想文を寄せていただいた派遣者は、22ページのとおりでです。

(1) 小・中学生の感想文

高橋 怜菜

私が広島に実際に行って、見たり聴いたりした中で、一番強い印象を抱いたのは「^{じっそう}実相」という言葉です。理由は、増岡さんの^{こうわ}講話の中で^{きょうちょう}繰り返し強調されていたこと、平和記念式典や資料館でも「実相」の二文字があったことからです。平和記念資料館が存在するのも「ヒロシマ原爆の実相をより多くの人に知ってもらいたい。」という思いからではないでしょうか。今、私は『はだしのゲン』を^{とうぜん}読んでいます。当然なのですが、広島で知ったことと同じこと、^{にかよ}似通ったことが出てきます。それを見て私は、「一つの出来事の実相を、たくさんの人が伝えようとしているのだ。」と気づきました。



被爆体験談 講師:増岡氏

広島に1945年の8月6日午前8時15分に落とされた原子爆弾のこと、その^{はいけい}背景、それ以前、その後のことを今、^{おぼ}覚えている人はもう本当に少ないと思います。十年もすればその方々から体験を聴く^{さら}機会は更に少なくなり、やがては無くなってしまおうでしょう。でも、私達が^{かた}第二の語り部になることはできます。職を語り部に^つしなくても、家庭内だけでだって「伝える」、「語り継ぐ」ことはできます。

大切なのは「知りたい!」と思い、知り、誰かに伝えようとする事だと思えます。今のところ私は二つは達成できているので誰かに伝えることを頑張りたいです。そして、私が考えた平和の定義は「誰もが全ての人の笑顔を願って努力を続けられる^{じつげん}世界」です。実現するのは不可能に思えますがそうなればいいなあと思いました。

佐藤 瑠莉

私は、今回の広島派遣に母と二人で参加しました。広島へ行ったのは初めてです。

「原爆」については、学校の授業でも教わりましたが、やはり想像していた以上のショッキングなものでした。被爆された方の話では、原爆が落とされた時は、警戒警報けいかいけいほうや空襲警報くうしゅうけいほうも発令されなかったとのことでした。

何の前ぶれもなく、突然落とされたということです。一瞬にして平穏な日常が地獄へと変わり、大勢の死傷者を出しました。

放射能は十年サイクルで症状しょうじょうが出るそうです。二才で被爆した佐々木禎子さだこさんは、かけっこも早い元気な小学生になりましたが、被爆から十年後の六年生の時に、原爆症である白血病げんぱくしょうを発症しました。

「千羽以上鶴を折れば、願いがかなう」と信じて鶴を折り続けましたが、願いは届かず亡くなってしまいました。本当に悲しい話でした。

六日の灯籠流しでは、様々な色の灯籠を世界じゅうから来た人達と一緒に流しました。私は元々決められていた「平塚市 アイラブピース」の他に、「幸せな世界」と想いを込めて書きました。



千羽鶴の献納

次の日の平和記念資料館では、怖くて目をそむけてしまいそうになりました。ただ「何でこんなことになったんだろう？」という疑問もわかりました。それをこれからも自分なりに調べたり、学んで考えていきたいと思いました。

濱野 憲伍

78年前の8月6日午前8時15分、ヒロシマに落とされ、一瞬にして街の全てを破壊した原爆。今回の市民広島派遣で、その「実相」を深く知り、考えることができました。

14歳で被爆された増岡清七せんめいさんが鮮明に語ってくださった被爆体験ひばくたいけん。自分にとっての負ふの出来事を思い出し、話すのは、とても辛く大変なことだと思います。増岡さんのお話の一言一言には、とても重みを感じました。

「親からもらった、ただ一つの命は何があっても守らなければいけない」

「自国の人も、他国の人も大切にしなければならない」

「『神と共にある』という言葉は雑ざつに使ってはいけない。逆ぎやくの立場まで考えないと平和はない。」

原爆さんげきという惨劇けいけんを経験した増岡さんが話すからこそ胸むねに響ひびき、今まであいまいだった平和について、命の大切さについて改めて深く深く考えることができました。

2日目の8月6日、僕たちは記念式典に参加しました。そこで子ども代表2人の「平和への誓ちかい」に、僕は心を動かされました。「命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。」という言葉は特に印象いんしょうに残っています。

僕の亡なくなった祖父そふも、僕と同じくらいの年に、戦争そかいで疎開そかいを経験しています。当時は食べ物もなく、辛いつら思いをしたようですが、苦しい時くるを生き抜いぬいてくれたからこそ、今の僕があるのだと思います。

その日の夜きぼう、「希望みらいある未来」という願もとやすがわいを込めて元安川に流したとうろう。いろいろな人々の平和への願もとやすがわいが表わられていて、とても感動しました。

原爆資料館では、あの日起こった惨劇に関する様々な資料や展示物を見学しました。折れ曲がった鉄骨あま、中身てっこつもろとも丸焦まるこげになった弁当箱くるこ、黒焦くるこげの三輪車てんじぶつ。こういった展示物を見ながら、

増岡さんが語ってくださった話が頭によみがえりました。一つの絵、一つの物、全てが当時の様相ようそうを表あらわしており、とても胸にしみました。それまでの日常が、たった一発の爆弾いっしゅんにより、一瞬うばにして奪うばわれてしまったんだということが改めてよく分かりました。

今回の市民広島派遣を通して、命の大切さ、戦争の怖さ、そして何より原爆がヒロシマにもたらした悲劇じっそうの「実相」を自分の目で、耳で、体で、心で感じ学ぶことができました。

これから先、平和記念式典はなで放たれた真まっ白しろなハトのように、おりづるタワーで自分が放いちわった一羽の折り鶴のように、自由はに羽はばたいていける「明るい平和な未来」を築きずいていきたいと思います。



元安川での灯ろう流し

爲田 陽人

ぼくは初めて広島に行きました。

戦争していた時に原爆が落とされた広島とは思えないくらい、人がたくさんいてビルもたくさんありました。本当にここに原爆が落とされたのかと思いましたが、原爆ドームをみて本当にここに落とされたのだということが分かりました。

とうろう流しをしたときに、キレイと思いましたが、この口ウソク一つ一つの意味が、原爆で亡くなった人への思いを込めて流していることをお母さんが教えてくれて、たくさんの世界中の人がこれからの平和を願って流しているんだなと思って感動しました。

袋町ふくろまち小学校の入口の展示てんじにキノコ雲の写真がかざられていたり、かべに家族への伝言でんごんなどが書かれていたり、今のぼくには考えられないような出来事がおきていたことが分かりました。

増岡さんのお話で分かったことは、戦争はとてもこわいものです。なぜ？ どうして？ それも分からないままたくさんの命がなくなり、たくさんの人が苦しんで生きていて、増岡さんもそのうちの一人です。「でもそれが戦争なんです。」って言った時に、戦争という言葉がとても重い言葉だと思いました。

ぼくが広島で戦争や原爆について勉強できたことを、友達に伝えていきたいと思います。そして、これから戦争がなくなる世界が来ることが一番いいなと思いました。

小野 寧久

私が今回広島に行き、一番感じた事は恐怖きょうふでした。

袋町小学校・原爆資料館などをほうもんし、被爆者の増岡さんのお話をお聞きすると原爆の恐ろしさ、悲しさを知り言葉にできないほどの感情になりました。増岡さんのお話では最後の方に言っていた「人として生まれてきたら、幸せに人生を全まっうしなきゃいけない」という言葉が印象いんしょうに残りました。それまでの、当時の具体的なお話ぐたいてきを聞いていると人生を全まっうできるはずだった人たちの未来が一瞬いっしゆんで奪うばわれたん



袋町小学校平和資料館の見学

だと思いました。また、原爆資料館でも、被爆者一人一人のエピソード展示の部分でも、とても胸が苦しくなりました。私の隣にいた外国人の方も泣いていました。

この外国人の方の他にもたくさん外国の人がいました。昔、アメリカの人に「広島出身です」と言うと気まずくなる、と聞いた事がありますが、むしろもっとアメリカの人たちにも広島に来てもらいたいと思いました。そして、世界中のたくさんの人に広島に落とされた原爆について知ってもらいたくなりました。また、最近ニュースではあまり見なくなったロシアとウクライナの戦争も、調べてみたくなりました。

いままで私のイメージでは、原爆や戦争はかなり昔の事でした。ですが、今回の派遣でそれらがとても身近な事になりました。平和の大切さ、尊さについても改めて実感しました。ありがとうございました。

平野 晴大

もともと広島は日本で6番目の都市で軍事都市でした。原爆ドームは広島県産業奨励館でした。原爆が炸裂した後、他の建物はほとんど崩壊しましたが、丈夫な原爆ドームは骨組みだけ残りました。おとされた原爆はリトルボーイと呼ばれ、他の原爆と比べるとおもちゃのよう



原爆ドーム

な物だと言うアメリカ人もいたそうです。アメリカ軍は原爆投下前日に警告のチラシを上空からばらまいたようですが風に流されて届かなかったようです。原爆は広島を広く崩壊させて、多くの人々が亡くなりました。生きのびた人や遠くで被害にあわなかった人でも、家族や友人を探して広島市に入り放射能をあびた人もいました。10年、20年単位でがんや原爆病になる人もいました。多くの人々の命をうばうこのような出来事は、二度とおこってはいけないと思いました。

平和とは、みんながみんなを傷つけ合わない事だと思いました。戦争をする事は平和とは言えません。戦争をしても手に入るのは少しの利益と大きなくしみです。多くの人々のぎせいの上に立つ事は平和とは言えません。僕は平和にするために身近な事でいうと、肌の色や性格がちがっても、どんなしょうがいがある人でも同じようにやさしく遊んだり、しゃべったり、いっしょに勉強したりする事が互いを理解し、平

和へつながると思います。今、カナダで起こっている火災も全世界で協力したら早く消火、解決すると思いました。広島や長崎で起きた事をくり返さないように身近なことから友達、後輩^{こうはい}たちに伝えていきたいと思ひます。

鈴木 蚩

はけん前のぼくは、戦争や平和について、あまり深く考えたことがありませんでした。けど、広島はけんに行って、戦争や平和のことがわかりました。

平和記念資料館では、戦争でなくなった人の日記や手紙、戦争でひげきにあった人のできごとなどがつまっていて、こわかったけど、たくさん学びました。原子ばくだんが落とされたのは、思ったより昔ではありませんでした。

戦後78年というのは、日本人の平均^{へいきん}じゅみようが80なので、それと比べ^{くら}ても短いからです。また、原ばくの「ひがいの大きさ」と「ひさんさ」を知る

ことができました。せ中^{なか}と顔がぐずぐずに焼けている人の写真や、血まみれで皮がたれ下がり、いたくても気にせず、子どもをかかえて走る家族の絵などがいっぱいあり、戦争のざんこくさを感じました。ひばくして、運よく生きのびても原ばく^{はら}症^{しょう}のせいで生きるのが非常にむずかしく、大変な思いをしている人が今もいることがわかりました。それなのに、今では広島と長崎に落とされた原ばくの80倍~800倍のい力の物が作られているそうです。うっかり地球がこわれるかもしれないばくだんがあると思うとこわくなります。

ぼくは、戦争や兵器^{へいき}が無い世界を1日でも早く実現^{じつげん}できたらいいと思ひます。そして平和というのは、他の国も自分の国も皆が笑顔でいる世界だと考えました。どんな国も戦争^{たにんごと}してはいけない、それは他人事ではないとわかりました。広島に行って本当に良かったです。どうもありがとうございました。



広島平和記念資料館

岩元 春真

広島に行く事がきまって、ずっとワクワクしていました。初めてのしんかん線にドキドキして、いっしょに行く仲間たちとも仲良くなって、どんな日をすごすのか楽しみでした。広島に着いて袋町ふくろまち小学校の平和しりょうかんに行きおどろきました。かべに書いたメッセージ、焼けたたいこ、原ばくがおとされる前の市民の平和な写真から、ばくだんがおとされた後の写真、ばくだんで全てがなくなり、多くの人たちがいたくて苦しい思いをしたんだと知りました。

次の日は、げんばくしりょうかんに行き、ばくだんは地面におちてばくはつしたとっていたけど空中でばくはつした事を知りました。写



袋町小学校平和資料館「焼けた太鼓」

真はいたいたい姿しかありませんでした。ぼくは最後まで見る事ができなくて「早く明るい所に行きたい」と言いました。当時の人たちは、もっともっと暗くてこわい思いをしたんだと苦しくなりました。げんばくドームを見て、ばくはつの強さが本当におそろしく、ばくしん地を見てたった一つのミサイルが多くの人を苦しめ幸せをうばった。何のためにこんな多くの人をぎせいにしたのか、ぼくはもっとせんそうの事を勉強し、沢山のたくさんの人に広島をあらそしてもらいたいと思いました。争いがない世界でいてほしいとぼくは思います。

水嶋 帆向

ぼくは、市民広島派遣に参加することになって、広島のことばくだんのことにも知らなかったので本を読んで広島のことをしりました。

原ばくのこともお母さんに聞いて毒のばくだんとしていたけど、広島平和記念資料館に行って、かみのけがぬけたり黒のぶつぶつができたりするとしてこわかったです。

でも家に帰ってお父さんと、広島のことや平和ってなんだろうと話しました。平和記念式典の平和へのちかいを読んで「平和とは争いや戦争がないこと」と書いてあって、ぼくには戦争をとめられないと思ったけど、少し下に「平和とは悪口を言ったり、



元安川での灯ろう流し

けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること」と書いてあって、こんなちょっとしたことが平和なんだとびっくりしました。

それならばくにもなにかできることがあるんじゃないかと思いました。たとえば平和へのちかいの「みんなの笑顔のために自分の力を使うこと」です。

広島でいろいろな平和をしたので友達や家族に伝えていきます。

原 みさと

今回、私は広島に行って印象的^{いんしょうてき}だったことが二つあります。一つ目は、原爆ドームについてです。思っていたよりも焼けあとが大きくのこっていました。いろいろな方向から見てみたら、ふだん写真では見れないような、うらがわのひみつがかくれています。それは、中が空^{くう}どうのようになっていたことです。まわりにくずれたかけらのような物がたくさん落ちていました。やはり当時の原爆のいりよくは、すさまじいものだったと感じました。

二つ目は、平和記念資料館についてです。ボロボロになった服や、親とはなれてしまった子どもなど、見ているのはとてもつらかったです。もし自分のいる所に落とされたらと思うと、ひばく者の方の気持ち^{きもち}が少しわかるような気がしました。そして私は増岡さんのお話を聞き、またぎもんが生まれました。それは、原爆が落とされる前の日にアメリカが、「これから原爆を落とします」と書いたビラをまいていったそうです。しかし、ビラは風で飛ばされてしまい、市内にのこったビラも、市民に見られないように回^{かい}しゅうした人物がいたとのことでした。私は、「ある人物」はなぜ市民に見られないように回^{かい}しゅうしたのか、そもそも、なぜ回^{かい}しゅうしてしまったのかななどを、もっとふかく考えていきたいです。



原爆ドーム

(2) 保護者の感想文

高橋 さより

広島原爆の恐ろしさについて真剣しんけんに考えたのは、私が小学生の頃、体育館みで観た『千羽づる』という映画でした。原爆の子の像のモデルとなっている佐々木禎子さだこさんの短い生涯しょうがいを実際の白黒ニュースを交えた物語まじだったと思います。同い年の女の子が戦争のを生き延びて学校生活を楽しく送っていたのに、9年も経って白血病はっけつびょうを発症はっしょうして少しずつ自由うばを奪さまわれていく様はとてつらく、なぜこんなことになってしまったのか戦争・原爆はあってはならないと強く思ったことを記憶しています。ちょうど機会あそびがあり家族で広島を訪れ原爆の資料館も見学したのですが、映画よりも生々しい実物じつぶつの遺品いひん、写真、資料に圧倒されてたくさんの感情こうさくが交錯してとても苦しかったのをおぼえています。今回は大人になり親の目線で見学させてもらいましたが、やはり子どもなを亡くした親の記録はよりつらかったです。当時は自分、家族、友達が死ぬことへの恐怖しか考えられなかったのですが、子どもうしなを失って自分だけ生き延びてしまった母親こうかいの後悔や苦しみが伝わってきて、改めて一発の原子爆弾の恐ろしさを戦争の恐ろしさを考えさせられました。

私たちは戦争を体験していません。そしてもちろん子どもたちも知らない世代です。だからこそ増岡清七さんの被爆体験のお話にもあったように、戦争にならないよう事前の国同士の話し合いがどれだけ大切か。豊かさじそんしんと自尊心ついきゅうを追求し続けて他国、他人だからといって人間を殺してよいのか。周りの人のことを考える想像力、共感力は常に持ち続けていきたいと思いました。子どもたちが学校で戦争の歴史を学ぶタイミングで、今回の広島派遣に参加させて頂けてとても良かったです。実際に平和式典への参加で岸田総理大臣や広島市長、地元の小学生の生の声が聴けて身が引き締まる体験しをさせて頂きました。ありがとうございました。



原爆の子の像前での集合写真

佐藤 由美子

娘が、中学校から配布された平塚市市民広島派遣のプリントを見て、こんな素晴らしい事業を行っていることを初めて知り、応募しました。

今回の派遣で心に深く残った1つ目は、^{ばくしんち}爆心地から1kmの所で被爆された現在92歳である増岡氏のお話です。その話の中で^{じっそう}実相との言葉が出てきました。うわべだけではなく、本当にある、そこの姿を知ることが大事であると...また、政治をする人は^{たみ}民の^{ふぼ}父母なり、民を^{ぎせい}犠牲にして国を悪化させるような役人は、役人をする^{やくにん}資格なし！との言葉に考えさせられました。そして最後のお言葉で、親からもらった命は大切に、人生を全うしなくてはいけない。周りの人の人生、他国の人の命も大切にしていなくてはならない。その言葉に、増岡氏の被爆者として生きてこられた人生に重なりあい、^つ胸に^さ突き刺さりしました。

2つ目は原爆投下されて78年にあたる^{ついで}追悼式典に^{さんれつ}参列できたことです。子どもたちのスピーチに^{あふ}涙が溢れ、犠牲になった方々への^{けんか}献花台にお祈りを捧げることができました。

3つ目は子どもたちが平塚市、I Love Peaceと書き、更に自分たちのメッセージを入れた^{とうろう}灯籠流しをしたことです。色とりどりの灯籠の^{げんそう}幻想的な^{ふうけい}風景に見とれながら、^{みたま}御霊に^{ささ}祈りを捧げました。

4つ目は、平和記念資料館です。原爆の被害の^{ひど}酷さ、^{じごくえず}地獄絵図のような状況に言葉を^{うしな}失いました。未来に^{みらい}希望を抱いていたであろう子どもたちの^{いひん}遺品を見た時は溢れ出す涙を止めることが出来ませんでした。

今は^{ふっこう}復興してきれいな街になりましたが78年前は、^{しじょう}史上初めて原爆が落とされた事実は、これからも伝え続けなければいけません。そしてこのような^{ひげき}悲劇が二度と起こらないよう、歴史から学ばなければいけないと思いました。

この市民派遣に参加し、なかなか経験出来ない大切なことを親子共々勉強させていただきました。本当にありがとうございました。



広島平和都市記念碑(原爆死没者慰霊碑)

濱野 明

78年前の8月6日、今年と同じような暑い夏の日^{あつ}にどんなことが起きたのか、破壊され焼け野原になり、多くの尊^{とうと}い命^{うば}が奪^{うば}われたこと、その現実を目で見て耳で聞いて、親子とも衝^{しょうげき}撃^{げき}を受けるとともに、「実^{じつ}相^{そう}」を少しでも肌^{はだ}で感じることで非常に勉強になりました。

まず、今回8月6日の平和記念式典に参加させて頂いたことは貴重な体験であり感謝^{いた}致します。特に子どもと同じ学年の平和への誓^{ちか}いを聞いた際は、強いメッセージでもあり感激しました。身近な意味での私達の平和といったものも、しっかり考えていきたいです。

この式典以外にも、折鶴に平和を祈^{ふくろまち}り、袋町小学校で必死に家族を探す様子を感じ、被爆者である増岡さんの生の声を聴き、多くの参加者ととともに灯ろうを流し、そして平和記念資料館での様々な資料を見学したこと、いずれも記憶に残る内容でした。外国の方も含めてたくさんの方が、この広島を訪^{おとず}れていることを理解して、この先、平和の思いを国境^{こっきょう}を越^こえて届けてほしいと思います。

今年のG7広島サミットでは、各国首脳^{しゅのう}が広島を訪れ、広島ビジョンも発信^{きょうい}されました。一方、世界ではウクライナとロシアの戦争が続き、中国の脅威^{きょうい}もあり、北朝鮮のミサイル発射^{けいぞく}が継続して起きています。日本がどういった立場で今後対応していくのか、世界の国々^{かんしん}とどのように手を結んでいくのかにも、関心を持ってほしいです。

最後に、今回親子でこのような貴重な体験^{きちょう}をさせて頂き、関係の皆様^{けいぞく}に深く感謝致します。また今後もこのような行事^{けいぞく}をぜひ継続して欲しいと思います。本当にありがとうございました。



平和記念式典

為田 有香

私は初めて広島に行きました。小学生の頃、何も考えずに読んでいた「はだしのゲン」というマンガ。夏になると必ず放送される「火垂るの墓^{ほたはか}」。大人になるにつれていろんな事を学び、子どもの頃とは違う視点で広島に行き、ただ思った事は一つ。

「たくさんの命がここで亡くなり、たくさんの人がここで涙を流したという事実。」

胸が締め付けられる、言葉を失う、どの言葉を選んでも表現ができないような気持ちになりました。

平和祈念式に参列させていただきましたが、そこにあった「平和の灯^{ともしび}」。これは原爆の火から平和の火へという願いと核兵器が地上から無くなる日まで燃やし続けようということで1964年からずっと消えていないそうです。

原爆が投下されてから、たくさんの人が犠牲^{ぎせい}になり、たくさんの人が苦しみながら生きてきて、今の私たちがある事を感じました。今後、私たちがまた同じ事をくり返さないよう、子ども達や子どもの友達にも伝えていけたらいいなと思いました。

そして一日でもはやく、あの平和の灯が消える事を願っています。



平和記念式典
「広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式」

小野 浩奈

今回、広島を訪問^{ほうもん}させて頂き、「戦争と平和」が非常に難しい問題で、シンプルな答えが出ないものであることを改めて思い知らされました。

以前に一度、出張ついでに広島^{ひろしま}の平和記念公園周辺を歩いたことがあったのですが、その際には原爆についてしっかりと学ぶことはありませんでした。今回は、袋町^{ふくろまち}小学校や原爆ドーム周辺を訪問し、増岡さんのお話をお聞きし、日常生活がこんなにも一瞬^{いっしゆん}で地獄に化してしまうのだという原爆の威力^{いりよく}を知り、恐ろしく感じました。さらに、平和記念資料館を見学し、そこに確かに普通に生きている人が沢山^{たくさん}いたこと、一瞬であるいは長く苦しんだ後に彼らはこの世からいなくなってしまったことを知り、涙が出てきました。

他方、現在の広島かっきの活気には驚おどろきました。とても住みやすそうな街で、東京や横浜に引けをとらないおしゃれなお店が多かったです。むしろ、東京や横浜より、地方どくじせいの独自性なのか、こだわりのある面白おもしろいようなお店が多いように思いました。原爆からの復興ふっこう、なにくそという意気いきが影響えいきょうしているのかわかりませんが、とにかく素敵すてきな街だと思いました。投下直後、75年は草も生えないと言われたそうですが、広島の方々は凄まじいエネルギーで復興を遂げられたのだと思います。他の地方都市ちほうとし、そして日本全体的に徐々に活気が失じょじょわれている中で異色いしよくの存在だと思いました。ただ、それが原爆の影響も関係しているのであれば複雑ふくざつな気持ちです。



平和記念公園

平和記念式典への参加という貴重な経験もさせて頂きました。この式典もそうですが、原爆投下の被害にあったのであれば、敵国に対する「憎悪そうお」を明確めいかくに表明ひょうめいしてもおか

しくないところ、広島では「平和」というコンセプトを貫いています。この点が素晴らしいと思うとともに、色々な思いの人がいるであろうことは想像かたに難くありません。核抑止論かくよくしろんについてもそうですが、「戦争と平和」は一枚岩では片づけられない難しい問題であると感じます。

今後も「戦争と平和」について考え、できることならば、自らも真みづかの平和に向けて何等かの活動なんらをしてみたいと思います。

平野 裕子

この度は市民広島派遣たびに参加させて頂き、ありがとうございました。私も子ども達もとても大切な経験になりました。

私が子どもの頃、祖父は東南アジアでの辛い戦争体験そふを言葉少なに語ってくれ、父は戦争で父親を亡くし、大変だった事を教えてくれました。それもあり私は普段より新聞や書籍から被爆者や戦争体験を知ろうと意識するのですが、どの様に子ども達に戦争を伝えてゆけば良いのか考えていました。

お話をしてくださった増岡さんは、中学生で建物疎開たてもそかいの作業中だったとの事。戦時

中とはいえ、そこには家庭があり生活があったはずです。原子爆弾の投下を受け、それを一瞬^{いっしゆん}で失ってしまう大変な被爆体験をした増岡さんは、「何より、戦争をしない事が大切^{おっしゃ}」と仰いました。「戦争をしない様にどうあるべきか教育する事も大切、君たちは幸せに過ごしてください」とも仰いました。

8月6日に合わせて広島には日本各地、世界各国から沢山の人が集まります。これだけの人が、広島であった出来事に想いを巡らせ、平和を考えている事を身をもって感じる事ができました。私達もそこに参加した一員として、平和への意識、他者理解^{りかい}、尊重^{そんちょう}そして歴史を学び、同じ惨劇^{さんげき}をくり返さぬように協力したいと思いました。人間なので、いざこざはつきものですが、相手の立場や状況、思いをお互いに理解^{たが}しようと歩み寄ることが第一歩なのかなと思います。

戦争、原爆を実際に体験された方々は、今ご高齢^{こうれい}です。戦争、そして原爆をくり返さず未来の子ども達が幸せに過ごせる様に、私達はよく考え、知った事、感じた事^{こうせい つな}を後世に繋いでいかなければならないと思いました。

鈴木 美希

「幸せに生きなさいよ。」

^{ひばくしゃたいけんたん}

被爆者体験談で増岡さんがかけてくださった言葉です。戦争、被爆を体験し、多くの苦しみを味わい、大



被爆体験談

切な人を戦争で失った増岡さんから発せられたこの言葉には重みがあります。今、日本は戦争こそしていませんが、いじめや虐待、貧困、性犯罪、増加する子どもの自死^{じし}、多様化^{たようか}する人権問題^{じんけんもんだい}など、問題は山積み^{もんだい やまづ}で、幸せを感じられない人が多い社会なのかもしれません。資料館で、生きたくて生きたくて、死にたくないと言いながら亡くなっていった方々の思いとの違いに何とも言えない気持ちになります。現状が辛い、理想の自分になれない、自分がわからないと「ないこと」に目を向け過ぎてしまうと生きるのが辛くなってしまいます。そんなときは、「あるもの」に目を向けて、当たり前になってしまっていて気にもとめていなかったことの中に幸せがあることに気づいて欲しいです。さんまさんの名言^{めいげん}「生きてるだけで丸儲け」、増岡さんの「幸せに生きなさいよ。」です。今しか見ていないとそのことを見失ってしまいます。戦争を知る

ことは、今を生きるのに必要なことだと感じました。

また、今も核抑止論^{かくよくしろん}を唱える人々^{とな}、核爆弾^{ほゆう}を保有している国々が存在しています。資料館では核実験による多大な被害^{ただい}も展示^{てんじ}してありました。戦争で、核兵器の研究のために、製作に費やした時間と費用を無駄ではなかったと自国にアピールするために、すでに負け確定状態の日本に原爆を落としたことも信じがたいことですが、核実験のために自国の国民をも被爆させる身勝手さには怒りを覚えます。脅しをもって脅威を制しようとする核抑止論も、核兵器という脅威をちらつかせることで、他国との交渉を有利にしようとする考えも、他人の気持ちを考えず、自分さえよければいいとするものでしかなく、悲しくなります。世界各国がお互いを思いやり、国民を大切にすることがあれば、戦争がなくなり、核兵器^{はいぜつ}廃絶に向けて行動できるはずです。「ヒロシマを知ることは未来を考えること」、世界中の人々に知って欲しい、考えて欲しい、そこから変わっていきけるのではないかと期待せずにはられません。私もまずは身近なところから、学んだことを広めていきたいと思います。

最後に、親子で広島派遣に参加し、貴重な体験^{きちょう}をたくさんさせていただいたことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

岩元 裕美

息子が戦争に興味をもったのが、他国の争いがテレビなどで映されたのがきっかけでした。人が人の命を奪うなんて絶対にいけない。昔、日本でも広島県に大きな爆弾が落とされたと話をしてしました。「ママ、広島に行ってみたい」息子の思いが叶い、今回参加する事ができました。初めての新幹線に心踊らされ着いた広島。焼かれた広島の写真や、壁に残されたメッセージ、資料館の中を行ったり来たりし、私の説明を聞いていました。灯籠流しでは、自分の思いを紙に書き、原爆で焼けた身体を冷やすため飛び込んだ川へ火を流し、手を合わせていました。その姿に胸が熱くなりました。

何より息子にとって一番の経験になったのが2日目の自由行動。私と息子は、原爆資料館に行きました。入口には普通の生活の街並みの写



広島平和記念資料館

真、そこから先、原爆が落とされた街のモニュメントの様な映像があり、目を見開いて見ていました。通路を進み、爆弾で焼けた皮膚、溶けて落ちる目、「熱い、熱い」と言い亡くなっていった小さな命。私は一つ一つの写真を大切に息子に伝えました。途中、息子が「ママもう明るい所にいきたい」「僕は辛い。」と目を塞ぎ、足早に出口へと向かいました。爆弾が沢山の命を奪い人々を苦めた事は、決して忘れてはいけないと言う事。そして、この経験を大人になっても伝えていってくれる事を願っています。

私と息子は今回参加と言う形で広島に行く事ができましたが、プライベートでも行き、もっと広島を知りたいと思っています。息子は多くを口にしませんでしたが、何かは感じてくれていると思います。

水嶋 千里

今回の広島は、私にとっては2度目の広島でした。1度目は高校の修学旅行。平和記念資料館も見学しましたが、高校生の私には、何となく怖くて、しっかりと見られず、「平和とは何か」を考えることもできなかった記憶があります。

今回は親子で参加する事業でしたが、子どもはもちろん、私も今まで、あまり広島のこと、戦争の事をきちんと知らなかった、考えてこなかったので、

事前に子どもと一緒に絵本を見たり、本を読んだりして、広島のこと、戦争の事を少し学びました。その上で実際に広島に行って、被爆者の方のお話を聞いたり、資料館を見学したりして、「平和とは何か」を子どもと一緒に考えました。

高校生の時には、怖くてちゃんと見る事ができなかった資料館。今回、母となり、我が子を戦争に送り出さなければいけないかもしれない立場になって見た、破けた子ども達の衣服や焼け野原の写真は、以前とは違う意味での「一瞬で平和を奪うものとしての怖さ」をもって、私に迫ってきました。

さらに、平和記念式典での「私たちにもできることがある」というこども達のスピーチ。子どもたちの言葉を生で聞いて、決して戦争を繰り返してはいけない、と強く



平和記念式典

思いました。

私にとって平和とは「自分の生活が穏やかであること」。今回広島を訪問して、それを一瞬にして奪った原爆、それを願うことすら罪とされた「戦争」の恐ろしさを感じ、それと同時に「平和」の大切さを実感しました

子どもは「え？それが平和なの？」という反応でしたが、でも、「それが戦争をしないことにつながるんじゃない？」という話をしました。どこまで伝わったかわかりませんが、その話を子どもとできたことが、もうそれだけでも、今回参加した意味があったのではないかと感じています。

今回、親子で広島平和派遣に参加させていただき、本当に良い経験になりました。今後もこの事業を続けていってほしいと思います。ありがとうございました。

原 由希

今回、娘が広島派遣に参加したいと言った時、娘には小学生のうちには楽しい思い出をたくさん作ってほしい、戦争の惨状にショックを受けるのはもう少し成長してからの方がよいのではないか、という私自身の思いからすぐに応募してみようと言うことができませんでした。しかし、彼女なりに「原爆とは？灯ろうとは？平和とはどういう事だろう」と知ろうとしている姿に感心し、参加を決めました。

娘が平和についてどのように考えているかというテーマで書いた事前作文には、「戦争があったからこそ新しい法律が決められ、世の中が豊かになっているという現実がある。」という一文があり私はこの文はどういう事なのか尋ねました。彼女は前に読んだ本にそう書いてあったから、そう思った。だから国語辞典にある平和の「戦争がなく、世の中がよくおさまっていること。」というのは本当の平和なのか分からないと答えました。

娘が「戦争があったからこそ」の部分に疑問を持たなかった事や、本に書いてあった事をそのまま自分の考えとして受け入れて書いた文章に違和感を感じながらの出発でした。

平和記念資料館には、原爆の被害を受けた人の中に、祖国を離れ、広島にいた東南アジアの留学生やアメリカ兵捕虜



広島平和記念資料館

もいたという展示があり、それを見たとき私は体験談を語ってくださった増岡さんのお話を思い出していました。本年5月の広島サミットでも触れられた被爆の実相について、増岡さんは自身の考えを孔子の「身体髪膚、これを父母に受く」という言葉を用いて私たちに分かりやすく説明してくださいました。父母から頂いた身を決して傷つけてはいけません。人間として生まれてきた自分は幸せになっていい。自分以外の人間、他国の人もそれは同じである。それが実相である。

資料館の展示に、国籍や民族の区別なく、その時その場にいたすべての人の人生を変えてしまった原爆の恐ろしさを感じました。

8月6日、元安川で皆と流した「平和」や「戦争をくり返さない」等のメッセージの書かれた灯ろうのひとつひとつに込められた思いが、平和をつくる力となっている事を幻想的な風景とともに心に留め、次世代に伝えていかねばならないと思います。

出発前に娘が書いた「戦争があったからこそ、世の中が豊かになっているという現実がある。」という文章に私が感じた違和感には、戦争がなかったら平和はなかったのか、という自問自答もありましたが、本で調べ、考えていた漠然とした「平和」という言葉では答えは出なかったと思います。

今回、戦争のつらさを語る声を聞いたからこそ、私たちの求める平和のひとつが戦争のない世界であること。そしてもっと身近な所にも、自分や周りの人を大切に思うこと、みんなが笑顔になれること。たくさんの平和があることを学びました。

高校の修学旅行で平和記念資料館を訪れた時の恐ろしい記憶からずっと敬遠してきた広島の街でしたが、この度、市民広島派遣に参加させて頂いた事で、「私にとっての平和」を考える出発点としての街になりました。



灯ろうメッセージ

(3) 事後まとめ会

A班、B班、C班に分かれ、市民広島派遣に参加して「平和について感じたこと、考えたこと」をテーマに、新聞記事や写真等を用いて報告書（壁新聞）を作成しました。

～ A班 ～

作成風景



発表風景



~ B班 ~

作成風景



発表風景



報告書

~ C班 ~

作成風景



発表風景



報告書



2 派遣者

(1) 派遣者数 10組20人

(2) 派遣者(順不同、敬称省略)

氏名	学年	班名	保護者
たかはし 高橋 れな 怜菜	中学2年	A班	たかはし 高橋 さより
さとう 佐藤 るり 瑠莉	中学1年	A班	さとう 佐藤 ゆみこ 由美子
はまの 濱野 けんご 憲伍	小学6年	A班	はまの 濱野 あきら 明
ためた 為田 ひなと 陽人	小学5年	B班	ためた 為田 ゆか 有香
おの 小野 しずく 寧久	小学5年	B班	おの 小野 ひろな 浩奈
ひらの 平野 はると 晴大	小学5年	B班	ひらの 平野 ひろこ 裕子
すずき 鈴木 ほたる 蛍	小学5年	B班	すずき 鈴木 みき 美希
いわもと 岩元 はるま 春真	小学4年	C班	いわもと 岩元 ゆみ 裕美
みずしま 水嶋 ほなた 帆向	小学4年	C班	みずしま 水嶋 ちさと 千里
はら 原 みさと	小学4年	C班	はら 原 ゆき 由希

事務局として、行政総務課職員2人が随行しました。



3 行程の記録

- 7月24日(月) 事前打合せ会 市役所本館5階519会議室
自己紹介、日程・注意事項等の説明
- 8月5日(土) 午前 6時00分 平塚駅北口集合
午前 6時20分 平塚駅発
午前 10時40分 広島駅着
午前 11時30分 宿舎着
午後 2時30分 平和記念公園内原爆の子の像に
千羽鶴を献納
午後 3時15分 袋町小学校平和資料館等を見学
午後 4時00分 被爆体験者の体験談・質疑応答
増岡 清七 氏
- 8月6日(日) 午前 8時00分 広島市原爆死没者慰霊式並びに
平和祈念式に参列
午後 7時40分 灯ろう流しに参加(元安川爆心地付近)
- 8月7日(月) 午前 9時30分 平和記念資料館を見学
午後 2時10分 広島駅集合
午後 2時40分 広島駅発
午後 7時20分 平塚駅着・解散
- 8月25日(金) 事後まとめ会 市役所本館5階519会議室
「広島派遣に参加して、平和について感じたこと、考えたこと」をテーマに、壁新聞を作成・発表

かくへいきはいぜつへいわとしせんげん 核兵器廃絶平和都市宣言

わたくしたちのまち平塚は、過去に戦災を被り市域の多くを焼失した悲しい歴史をもっています。そして今のわたくしたちには、こうした惨禍をくり返すことのないよう、平和を守り次代へ引き継いでいく責務があります。

しかし、現在地球上には、数多くの核兵器が蓄えられ、人類に深刻な脅威を与えています。

世界の平和と安全は、すべての人の願いです。平塚市は、「国際平和の年」を迎えるにあたり、美しい地球と輝かしい未来を守るため、国是である非核三原則の順守とあらゆる核兵器の廃絶を願い、「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。

昭和60年12月20日

平塚市



平和モニュメント「マザーアース」